

ホームレス状態を減らし、居住安定性を改善する介入は効果的である



さまざまな居住プログラムとケースマネジメントの介入は、同様に有益な効果があると考えられるが、ホームレス状態を減らして居住安定性を向上させるのにどれが最善であるかは明らかではない

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューは、ホームレスの人たちもしくはホームレスになるリスクのある人に関して、ホームレス状態を減らして居住安定性を向上させるための介入の効果を検証している。このレビューには43件の研究が含まれており、このうち37件は米国から得られたものである。

世界中には多くのホームレスの人たちがいる。よりよい品質のエビデンスは必要であるが、ホームレス状態に対処する介入は効果的であると考えられる。

このレビューでは何に検討したのか？

世界中には、多くのホームレスの人たちがいる。ホームレス状態に対抗するための努力は、地方自治体レベルだけでなく国レベルでも行われている。

このレビューでは、ホームレスの人たちもしくはホームレスになるリスクのある人たちに関して、ホームレス状態を減らして居住安定性を向上させるための手段として、ケースマネジメントを伴う、もしくは伴わない居住プログラムの効果について評価している。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？このレビューに含まれる研究は、既にホームレスの人たち、またはホームレスになるリスクのある人たちに対する介入についてのランダム化比較試験(RCT)であり、少なくとも1年間のフォローアップによって、ホームレス状態もしくは居住安定性に対する影響を測定していた。

合計で43件の研究が含まれた。研究のうちの大多数(37件)が、米国で実施されたものであり、英国は3件、オーストラリア、カナダ、デンマークはそれぞれ1件であった。

このレビューの主な結果は何か？

このレビューに含まれる介入は、すべての比較において、ホームレスを状態減らす、もしくは居住安定性を改善する上で、通常のサービスよりもより良い成果を上げている。

介入は、以下の通りである。

- 高強度のケースマネジメントと低強度のケースマネジメント
- ハウジング・ファースト(Housing First)
- 緊急時介入(Critical time intervention)
- 禁欲随伴インセンティブ住宅(Abstinence-contingent housing)
- 高強度のケースマネジメントを伴う非禁欲随伴インセンティブ住宅
- 住宅補助受給券(Housing vouchers)
- 収容療法(Residential treatment)



このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2016年1月までに行われた研究について調査した。このキャンベル系統的レビューは2018年2月に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約は、ハワード・ホワイトHoward White (キャンベル・コラボレーションCampbell Collaboration)によって作成された。Campbell Systematic Review 2018:03 “Effectiveness of interventions to reduce homelessness: a systematic review and metaanalysis” by Heather Menzies Munthe-Kaas, Rigmor C Berg and Nora Blaasvær (10.4703/csr.2018.03.)に基づいている。要約は、タニヤ・クリスチャンセンTanya Kristiansen(キャンベル・コラボレーションCampbell Collaboration)が再デザインと編集を担当した。この要約に対するAmerican Institutes for Research for the productionからの財政的支援に謝意を表す。



これらの介入には、同様に有益な効果があると考えられる。しかし、ホームレス状態を減らして居住安定性を向上させるという点について、このなかのどれが最善であるかは明らかではない。通常のサービスと比較した場合、高強度のケースマネジメントとハウジング・ファーストでは、中程度の確実性があるエビデンスが得られている。

このレビューの知見の意味するところは何か？

さまざまな居住プログラムとケースマネジメントの介入は、通常のサービスと比較すると、ホームレス状態を減らし、居住安定性を向上させるように思われる。

しかし、不十分な研究報告、二重盲検の不実施、不十分なランダム化、参加者割付の秘匿の不実施によるバイアスのリスクが大部分の研究にあるため、この知見は不確かである。よりよく実施および報告される研究が一般的に必要なものに加えて、以下の点に関する研究には明らかな乖離みられる。1) 恵まれない若者、2) ケースマネジメントもしくは日中治療を伴う禁欲随伴インセンティブ住宅(Abstinence-contingent housing)、3) 非禁欲随伴インセンティブ住宅の比較群vs 独立生活群、4) 通常のサービス以外の介入と比較したハウジング・ファースト、5) 米国以外の研究。